ぜんまいラジオ

単純こそ最高という言葉がある。単純こそ本質をついているからだろうか。２０秒間ぜんまいを巻けば４０分ラジオが聞こえるという〝ぜんまいラジオ〟が４年まえ登場した。消費天国日本ではスイッチを押せば当然のごとく電灯がつき、電池は列島の津々浦々で買える。ところが世界には電気や電池もない地方も多い。電気のないところでも電波は届く。　電気を起こせばラジオが聞け時計がゼンマイのバネの戻る力で振り子が振れるではないか。ぜんまい仕掛けで歯車でゆっくりと戻しながら電気を起こせばラジオが聞けるはずとイギリスの発明家が考案してイギリス政府からのＯＤＡの援助を受けて見事実用化された。まさに生きたＯＤＡのお手本である。

南アフリカの工場でつくり、それも９割の身障者が働いている工場で年間百万台の生産規模で世界にも輸出するという話である。廃棄電池のゴミ公害もなく開発途上国でおおきな威力を発揮する。単純さこそ本質をつくぜんまいラジオの発明の発想は、ますます複雑系化が進む現在の科学への警鐘を鳴らしているのかもしれない。単純さを忘れた時に落とし穴に落ちる。最近あまり見かけなくなったが鉄道のように指差し確認な基本動作の精神があれば、病院で患者を取り違えて手術もなかったであろう。単純かつ最も正確なものではなかろうか。

天気予報の世界でも現在は限りなく複雑系の科学になりつつある。複雑な予測式をスーパーコンピュータで計算して、さらに実際の天気予報に翻訳するのに人工知脳の複雑な手法を使っている。実際の天気や気温などの直前までの経過を学習しながら予想を修正して雨だ雪だ、最高気温は３５ドなど日本中の地点で予想する優れものである。

ところが優れもの予測手法でも、自然の意外性をもった変動には困っている。学習効果の弱点を突かれて最高気温５０℃とか、変なところで雨が降ったりする予想外の値を計算して出してしまうことがある。計算途中がブラックボックス見えずに自然から試されている予報官は悩み続けている。回答はでない。こんなときには初心に返って単純こそ本質、本質を謙虚にさがし判断せざるをえない。

ゼンマイ仕掛けのラジオからはどんな天気予報が流れてくのだろうか。複雑な天気予報が、「今日も晴れがつづき、雨季の前線が迫る6日後まで晴れ」か、それもゼンマイが切れかかってノイズで途切れ途切れに聞こえるというコントラストに文明との微妙の差が見え隠れして興味深い。

（村松　照男）